

News Clip & AV Material

◆ ニュースクリップ&映像教材



■(社)日本教材備品協会『義務教育諸学校における新たな教材整備計画』のパンフレット配布

(社)日本教材備品協会では、国の新しい教材整備計画についての資料を作成し、このほど全国の教育関係者に配布した。これは、文部科学省が進める新学習指導要領等に対応し、子どもたちの確かな学力育成を図るため、学校教材の安定的かつ計画的な整備を促進する『義務教育諸学校における新たな教材整備計画』についてのパンフレットであり、平成24年度から33年度までの10年間、単年度約800億円、10年間で、8,000億円が地方財政で措置されるものである。パンフレットについての問い合わせは、(社)日本教材備品協会 TEL 03-5919-2055まで。

AV情報

■文化庁「平成24年度著作権セミナー」開催

文化庁では、著作権に関する基礎的な理解を深め、もって著作権制度の知識や意識の向上を図ることを目的に全国14カ所にて、標記セミナーを開催する。

〈期日・会場〉

- 平成24年11月28日(水) 札幌市中央図書館講堂(札幌市中央区南22条西13-1-1)他
- 平成24年11月21日(水) 宮城県庁講堂他(仙台市青葉区本町3-8-1)
- 平成25年2月6日(水) 群馬会館ホール(群馬県前橋市大手町2-1-1)
- 平成25年1月18日(金) 千葉市生涯学習センター(千葉市中央区弁天3-7-7)
- 平成24年8月22日(水) 新潟県立生涯学習推進センター(新潟市中央区女池南3-1-2)
- 平成25年2月1日(金) サンドーム福井・小ホール(福井県越前市瓜生町5-1-1)

- 平成24年12月6日(木) 岐阜県庁大会議室(岐阜県岐阜市藪田南2-1-1)
 - 平成24年12月14日(金) ウイルあいち・愛知県女性総合センター(名古屋市東区上堅杉町1)
 - 平成24年10月19日(金) 滋賀県庁大会議室(滋賀県大津市京町4-1-1)
 - 平成24年7月2日(月) 京都市勤業館「みやこめっせ」大会議室(京都市左京区岡崎成勝寺町9-1)
 - 平成24年6月20日(水) 奈良県農業総合センター農業交流館2F A研修室(奈良県橿原市四条町88)
 - 平成24年8月3日(金) 国際ファミリープラザ(鳥取県米子市加茂町2-180)
 - 平成24年8月24日(金) 愛媛大学(愛媛県松山市文京町3)
 - 平成24年11月26日(月) 高知会館(高知県高知市本町5-6-42)
- 〈対象〉 一般、図書館職員、教職員、行政職員、美術館・博物館等職員。参加費・テキスト等も無料で配布。詳細は、下記を参照のこと。

▶ソフトウェア

ICT活用教育支援ソフトウェア「SKYMENU Pro Ver.14」6月販売開始予定

Sky(株)では、すべての教室でICT活用が可能となるような、標記ソフトウェアを、平成24年6月に販売開始予定である。

本ソフトウェアの主な特長は、

①コンピュータ教室をより使いやすく

- 一人ひとりの個人フォルダにアクセスせずに、児童の個人フォルダに保存されている作品や課題のファイルを連続閲覧でき(図)、また、個人フォルダに教材ファイルなどを配布し、回収も可能。児童の作品をどこでも確認、評価できる。

- 児童がグループで協力して、同時に資料を作成。
- ボタンひとつで、どこからでも教員機を操作可能。

②体験を通じた情報モラル指導を支援

- スマートフォンデザイン対応。
- 「仮想携帯」児童向け教材・教員向け研修セットを用意。



図・SKYMENU Pro Ver.14の作品閲覧画面

③普通教室のICT活用授業を支援

- 授業のポイントで、効果的に教材を提示。
- 普通教室で複数の学習者機を効果的に活用。

他、詳細は、<http://www.skymenu.net/>を参照のこと。

〈価格〉 オープン価格

〈問い合わせ先〉 Sky(株) 東京支社広報部

TEL 03-5796-2752

http://www.bunka.go.jp/chosakuken/seminar/24_chosaku_seminar_youkou.html

〈問い合わせ先〉 文化庁長官官房著作権課著作権普及係 TEL 03-5253-4111 (内線3169)

■ New Education Expo 2012

New Education Expo 2012実行委員会((株)内田洋行他)主催により、標記セミナーが開催される。
 〈日時〉 平成24年6月7日(木)～9日(土)(東京会場)、6月22日(金)・23日(土)(大阪会場)
 ※時間は各日による。

〈会場〉 東京ファッションタウン(東京都江東区有明3-1)、大阪マーチャндаイズ・マート(大阪府中央区大手前1-7-31) ※東京会場の映像と音声を繋ぎ、その模様を札幌会場(ユビキタス協創広場U-cala・札幌市中央区大通東3-1)、帯広会場(帯広市西4条南13-1)、福岡会場((株)内田洋行九州支店・福岡市中央区大名2-9-27赤坂センタービル)の各会場でも上映。

〈対象〉 学校、教育関係者。

〈内容〉 教育業界における最新のトレンドと教育

現場の活用事例をテーマの中心とした講演、実践事例発表、展示会など。入場無料。詳細は、下記を参照のこと。

<http://edu-expo.org/>

〈問い合わせ先〉 New Education Expo実行委員会事務局(株)内田洋行 教育総合研究所内
 TEL 03-5634-6397 MAIL expo@uchida.co.jp

■ 記録映画アーカイブ・プロジェクト第8回ワークショップ「空に、地下にのびる都市—東京オリンピック前の建設記録映画」

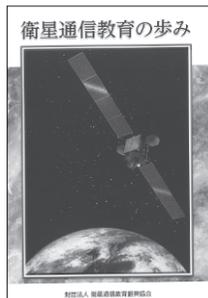
東京大学大学院情報学環(記録映画アーカイブ・プロジェクト)主催により、標記ワークショップが開催される。

〈日時〉 平成24年6月17日(日)13:30～17:30(開場は13:00)

〈場所〉 東京大学本郷キャンパス福武ホール(東京都文京区本郷7-3-1)

〈内容〉 映画上映「東京タワーの建設記録」(33分)、「空にのびる街」(30分)、「銀座の地下を掘る」(36分)、制作者が語る、パネリスト報告、全体

▶ 資料紹介



【衛星通信教育の歩み】

(財)衛星通信教育振興会発行
2012年3月発行 B5判 184頁

海外報道からの中継を、日々Liveで見られる衛星通信の恩恵に浴して久しい。

この衛星通信メディアの利点に着目し、教育メディアとする衛星通信教育が誕生した。そして、産学を束ねて普及促進に努めたのが、財団法人衛星通信教育振興協会である。いくつもの衛星通信教育ネットワークの運営を支援してきた。このたび、当初の目的を達成したことから、17年間の活動成果を取りまとめたものが本書である。

衛星通信を利用する教育は、国内・海外の多地点を結ぶ同時性双方向通信による教育環境を実現する。その可能性追求のために、固定局と衛星アンテナ車載局を全国に配置した教育実践や、定常的な海外の大学との授業交流など、距離の制約を

克服する衛星通信の利点を最大限に活かした教育の実現と教育方法の研究開発が行われてきた。

本書では実現されたシステムとその活用事例の説明にとどまらず、教育制度や教育ニーズにいかに対応したかが述べられている。特に、寄稿や対談での内容は新たな教育方法の実現を目指す上で参考になる。さらに、遠隔間であるからこそ、学習者の応答を積極的に収集して評価する研究開発も次々と行われた。成果である研究論文も体系的に取りまとめられている。すなわち、本書では、同時性双方向教育の可能性と限界を追求した研究成果がまとめられている。

一方、インターネットの普及によって、同時性教育だけでなく、個々の学習者が時間を選べる非同時性教育の可能性が生まれ、これまでの同時性教育をも包含するようになってきた。本書は、衛星通信教育として検討された多くの方法論が、非同時性教育の実施や評価にも活かされていることがわかる貴重な記録である。

本書を通して、これまでの衛星通信教育の全体的な展開を理解することができる。関係者各位のご尽力に改めて敬意を表する次第である。

(東京工業大学大学院教授 中山実)

討論(コーディネーター:吉見俊哉氏(東京大学))等。入場無料。下記URLより、事前登録のこと。
<http://www.kirokueiga-archive.com/event/index.html>
〈問い合わせ先〉記録映画保存センター
MAIL center_otoiawase@kirokueiga-hozon.jp

コンクール情報

■ 第39回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

NHKでは、世界の教育放送とメディアの向上に貢献するため、標記コンクールを実施するにあたり、作品を募集している。

〈応募資格〉 応募作品の著作権を有する放送事業者、映像制作プロダクション、コンテンツ制作団体、教育研究機関、教育事業者、非営利活動法人等
〈カテゴリー〉 ①幼児向、②児童向、③青少年向、④生涯教育、⑤福祉教育、⑥イノベティブ・メディア
〈応募対象となるコンテンツ〉

A テレビ番組／映画／ビデオ、B ウェブサイト、C ゲーム、D その他の双方向コンテンツ

なお、最も教育的効果が高く、的確に時代の要請に応え、教育放送の発展に寄与するコンテンツには、グランプリ日本賞として、賞牌、賞状、賞金(5,000米ドル)が授与される。他、詳細は、下記を参照のこと。

http://www.nhk.or.jp/jp-prize/contest/rules/oubo_contents.html

〈エントリー締切〉平成24年6月30日(土)

〈問い合わせ先〉NHK「日本賞」事務局

TEL 03-3465-6199

文部科学省選定作品

■ 4月選定 紙しばい ビデオ DVD

特選「いつもの幼稚園に戻ること—2011年 岩手県大槌町—」 60分 〈成人、家庭や地域等における教育(乳幼児期)〉(財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

「よもぎだんご ペったん」 8枚 〈幼稚園／幼児、教養〉(株)童心社

資料紹介



「教育放送75年の軌跡」

教育放送研究会発行
2012年2月発行 A4判 248頁

この本を読んだとき、日本の教育の課題の縮図を見る思いがした。教育放送の歴史は、「ゆとり教育」、「総合学習」、「基礎学力」、「教師教育」などの教育課題と常に向き合っていたからである。

これまで、教育放送に係わる資料には、1960年の『学校放送25年の歩み』（NHK編）、1974年の『放送教育の歩み』（全放連編）、1986年の『放送教育50年—その歩みと展望』（全放連・日本放送教育学会）がある。今回の『教育放送75年の軌跡』（教育放送研究会編、2012年）には、現役の制作者とOBによる番組制作に中心を置いた75年の歴史とともに、当時の問題と、今後の課題が述べられている。

本の全体は、5章からなっており、Ⅰラジオ教育放送の誕生、Ⅱテレビの時代、Ⅲ技術革新と国際化の中で、Ⅳ教育改革と放送メディア、Ⅴ通信技術革命とクロスメディアの時代へ、である。それぞれの章には、番組制作の実際と問題が述べられている。これに、23篇のコラムが掲載されている。

第Ⅱ章の第2節の「教科教育体系の確立」には、校種別、教科別の番組制作が始まり、幼稚園・保育所、小学校、中学校、高校、定時制、通信制高校、通信大学と、学校教育全般にわたる放送番組が制作されている。1972年には学校放送部の組

織が拡張され、道徳班、社会科Ⅰ班、社会科Ⅱ班、国語班、英語班、音楽班、理科Ⅰ班、理科Ⅱ班、特殊教育班、教師・家庭班の10班が編成され、学校放送部長以下116名の大所帯になったことなど、学校放送の最盛期の様子が描かれている。

放送番組は教科書の改訂とは異なり、毎年新しい内容や考えを盛り込むことができる。例えば、1995年11月27日に起こった「中学生いじめ自殺事件」は、12月18日の『中学生日記』で緊急特集「クラス討論・いじめ」で放送されている。この放送の翌日には、生徒からの550通の感想が寄せられ、12月21日に再放送されたことが記されている。このような放送の即時性を有効に生かした例も多く集録されている。

他方では、制作過程での議論の記録もある。例えば、理科番組に見られた新しい教育・学習の先導的な番組構成である。「概念形成学習」、「帰納的思考の促進」などを具体化した番組であった。理科番組は、常に高利用率を記録していたが、その番組制作に関して、白熱した議論があったことが分かる。理科番組では、日常の教室では見ることのできない現象を映像で提示することに意義があるとする番組の「資料性」に重点を置くという考えと、事象を観察し、概念化する「思考過程」に重点を置く番組構成との間に熱い議論があったことを知る。資料性を重視する番組として、「特別シリーズ」が1980年から始まる。ビデオの普及に伴って、「資料性に富んだ番組」という要望に応えたものであった。新たなメディア状況、特に放送のデジタル化によって、新たな教育放送も生まれている。これを生かすためにも、この書に多く盛り込まれた内容は「温故知新」のための得難い資料だといえる。（国際基督教大学名誉教授 中野照海）

「虹のきずな」 ㊦36分 〈小学校（中・高学年）、特活／少年・青年・成人、地域社会生活（人権）〉（株）学研教育出版

「中学生のための剣道」「中学生のための柔道」 ㊦各35分 〈中学校、保健体育〉（株）パンドラ

「マンガ『家族愛—拉致問題を絶対に忘れない—』」 ㊦8分 〈高校、公民／青年・成人、地域社会生活（人権）〉（社）新潟青年会議所

「大丈夫ですか？お宅の防火—家族で学ぶ火災への対策—」 ㊦19分 〈青年・成人、地域社会生活（災害予防・対策）〉不二映画（株）

放送番組

「ティーンズプロジェクト フレ☆フレ」

Eテレ（金）18:55～19:25 再放送（土）12:00～12:30※都合により番組内容変更あり。

〈6月のテーマから〉○「夢はF1！高校生レーサー」、○「ふるさとを元気に！ご当地アイドル」、○「“幻”に挑む14歳カメラマン」番組詳細は、下記を参照のこと。<http://www.nhk.or.jp/teens/index.html>